



お点前 拜見



ひしゃくの置き方にも作法が



心を込めて
茶をたてます



ふくさでなつめを
清めます

子ども茶道
クラブ



たてた茶は順番に飲みます



水差しは
釜の脇に

川越子ども
茶道の会



和菓子を懐紙
に乗せます

場者にお点前を披露するため、順番が来ると真剣に取り組んでいました。
講師の増賀暁さん（72歳・上松原）は、「真剣に取り組むことが、茶道を樂しむことにつながります。茶道を通して、子どもたちに集中力と自己管理する力が身に付いてほしいですね。」



けいこは礼で始まります

茶道の基本
「和敬清寂」という茶道の基本を表すことばがあります。和を大切に、人を敬い、清らかな心で、心静かに心を込めて茶をたてるということを表しているそうです。
これと並んで、茶道の基本といわれているのが「礼」。日常生活でも大切なあいさつや礼儀は、茶道の基本として組み込まれています。
子ども茶道クラブでは
福原公民館で活動している「子ども茶道クラブ」。小学二年生から中学三年生まで、十三人が茶道を学んでいます。六月十一日のけいこでは、一人ずつ順番にお点前。十一月十二日（土）に福原公民館で行われる「ふくはらまつり」で、来

一 所懸命に楽しむ
二つの会の子どもたちに共通しているのは、「礼」をきちんとすること、上手下手に関係なく一所懸命にすること。茶道を一所懸命にすることは、樂しむことにもつながります。継続していくことで、お点前の作法がきちんとできるようにになると、さらに楽しみは増えます。子どもたちは自分自身の成長に合わせて楽しむことができる。これが、茶道の魅力なのでしょう。



みんなでふくさのたたみ方をおさらい

川越子ども茶道の会では
「川越子ども茶道の会」の会員は、小学二年生から中学二年生まで、二十三人。名細公民館で活動しています。
六月十八日のけいこは、作法のおさらいから。そのあと経験年数や学年などによって三班に分かれて、お点前のけいこが始まりました。
「茶道をす

まちのできごと
川越市の面積は109.16km²

109パレット



童子が杯を運んできます

雅楽の調べに乗せて

10回目を迎えた小江戸サミット。6月4日、第1部は養寿院(元町2丁目)で曲水の宴が、第2部は亀屋山崎茶店(仲町)で講演「葦の再生」が行われました。曲水の宴とは、流れる水に浮かべた杯が通り過ぎるまえに詩歌を詠むという、奈良・平安時代に行われた宮中行事です。「舟」という題で、当時の衣装をまとった栃木・佐原・川越の各市長が歌人として参加。各市から訪れた皆さんは、雅楽の調べに乗せた風流な遊びを楽しんでいました。

蛇口から出る水は……

毎年6月1日から7日までは水道週間です。上下水道局は水の大切さと水道事業への理解を深めてもらうため、平成14年から施設開放を実施。ことしは4日に中福受水場で行われました。来場した皆さんは、ふだん目にするののない受水場の機械を見ながら、水道の水がどこからやってくるのか、説明に聞き入っていました。来年もこの時期に霞ヶ関第二浄水場で施設開放が行われる予定です。



どうやって家まで届くんだね!



仕上げに愛情をたっぷり



おいしいよ

お母さん、また作ってね

6月14日、大東公民館で小学生以上のお子さんを持つお母さんたちが参加して行われた「お母さんの初めてのパンづくり」講座。ハムロール・マヨネーズロール・シナモンロールの3品を作りました。「粘土遊びみたい」と生地を作り、「感触が気持ちいい」と成形し、「もちもちしてる」と焼き上がったパンを試食。講座終了後、できたてのパンを持ち帰ったお母さんたちのおかげで、子どもたちは手作りのおやつを楽しむことができました。



どうやって直すか相談しています

「おもちゃの修理の様子を見て、おもちゃの仕組みに興味を持ってもらうとともに、物を大切にすることを大切に、物を大切にほしうです」と話す代表の則竹佑治さん(70歳・日東町)。直ったおもちゃを受け取る皆さんの笑顔を励みに、これからも修理は続きます。

小江戸おもちゃ119
平成十三年十二月に中央公民館で行われた「おもちゃドクター養成講座」。講座終了後、参加者の有志が集まって、おもちゃを直すボランティアグループ「小江戸おもちゃ119」が結成されました。現在、会員は十七人。中央公民館・伊勢原公民館と川越駅東口児童館で毎月一回ずつ活動しています。
修理の依頼は、ぬいぐるみから最新のゲーム機器までさまざま。そのため毎月一回、各自の知識・技術・経験を交換する研修会を実施しています。昨年は四百個以上のおもちゃ修理を依頼され、九割以上を直すことができました。そしてそのほとんどは当日中に修理が完了します。



どうやって直すのかなあ

かわい
越
び
と
15